

学位論文の要旨

非感染性疾患における日本の Community Health Workers の
認知的・行動的コンピテンシー尺度（COCS-N）の開発
Development of a Community Health Workers perceptual and behavioral
competency scale for preventing non-communicable diseases (COCS-N) in Japan

Yuki Imamatsu

今松 友紀

Yokohama City University Graduate School of Medicine
Department of Nursing Doctor's Course of Nursing Science
Community Care System Nursing

横浜市立大学大学院医学研究科
看護学専攻 博士後期課程 地域ケアシステム看護学

Doctoral Supervisor : Yuka Kanoya, Professor

指導教授：叶谷 由佳 教授

副指導教員：有本 梓 教授

2023 年 3 月

学位論文の要旨

Development of a Community Health Workers perceptual and behavioral competency scale for preventing non-communicable diseases (COCS-N) in Japan

非感染性疾患における日本の Community Health Workers の
認知的・行動的コンピテンシー尺度 (COCS-N) の開発

<https://doi.org/10.1186/s12889-022-13779-5>

序論

Community health workers (地域保健非医療従事者：以下 CHWs) は、WHO において、プライマリ・ヘルス・ケアを医療者に代わって提供するために選出される地域住民と定義されている [World health organization, 1989・2021]。日本では、地域保健システムをボランティアとして支える CHWs が日本の健康課題に応じて育成されており、NCD 予防に取り組む CHWs が存在している。地域を基盤に、一次～三次の予防活動を看護専門職である保健師が行うところが日本独特のシステムであり、保健師は、CHWs の養成、CHWs の制度の維持、健康に関わるボランティアに関する事業化・施策化に責任を持っており、ともに地域に根差した活動を行っている [Murayama H, 2007]。都道府県の平均寿命と健康寿命の格差に関する研究では、CHWs に多くの資金が投入されると健康寿命が高くなることが明らかになっている [Japan Public Health Association, 2016]。

しかし、CHWs のコンピテンシーが明確化されておらず、CHWs のコンピテンシーと健康関連アウトカムの関係性が捉えられない現状にある。コンピテンシーとは、1993 年にスペンサーとスペンサーによって提唱された概念であり、「職務や役割において優秀な成果を発揮する行動特性」として定義される。高業績者のコンピテンシーは、行動的側面 (例：スキルや知識) と認知的側面 (例：態度や価値観) を含む独自の特徴を持っている [Spencer L.M et al, 1993, M Ishikawa et al, 2019]。

そこで本研究では、Community Health Workers perceptual and behavioral competency scale for preventing non-communicable diseases (COCS-N) in Japan を開発し、その信頼性と妥当性を検証することを目的とした。

方法

研究デザインは尺度開発である。先行研究のレビューから概念枠組みを作成し、その内容とこれまでの研究者が実施した研究から、30 項目からなる COCS-N の暫定版尺度を作成した。その後、CHWs 当事者と CHWs を育成・支援する保健師、研究者によるインタビュー調査により、20 項目の COCS-N 修正版尺度を作成した。

完成版作成のための本調査では、無記名自記式質問紙を用いた横断研究を実施した。日本国内 94 自治体の CHWs 合計 6,480 名を依頼対象とした。完成版尺度の開発にあつ

ては、項目分析と探索的因子分析を行い、因子構造を確認した。COCS-N の構成概念妥当性は確証的因子分析により、内的整合性は Cronbach's alpha により評価した。また、COCS-N の基準関連妥当性を評価するために、欧州ヘルスリテラシー調査質問票

(European Health Literacy Survey Questionnaire : HLS-EU-Q47) [Berkman ND et al,2011, Nakayama K et al,2015]と地域コミットメント尺度 (Community Commitment Scale : CCS) [Ayumi Kono et al,2012]を用いた。

結果

合計 3,140 件の有効回答が得られた。項目分析の結果、6 項目が除外された。また、探索的因子分析の結果、新たに 6 項目が除外され、2 因子 8 項目で最適解を得た。確証的因子分析の結果、適合度指数 = 0.991、調整済み適合度指数 = 0.983、比較適合指数 = 0.993、近似二乗平均平方根誤差 = 0.036 であった。Cronbach's alpha 係数は 0.88 であった。第 1 因子は「健康に生きる喜びの共有」という認知面を、第 2 因子は「地域の健康資源の創出」という行動面を示していた。

COCS-N 得点は、ヘルスリテラシー調査質問票得点および地域コミットメント尺度得点と有意な正の相関があった ($r = 0.577, P < 0.001$ および $r = 0.447, P < 0.001$)。

考察

COCS-N は、Cronbach's alpha 係数が 0.88 で信頼性が高く、確証的因子分析と併存妥当性の検証から妥当性が高い尺度であり、かつ、CHWs にとって簡潔で実施しやすい尺度である。

第 1 因子は、健康的な生活やポジティブな健康行動が楽しい活動であるという CHW の認識と、その認識を他の人と共有するというニュアンスを捉えようとした概念であった。健康行動モデルでは、特定の病気にかかる可能性の認識など、健康に関する信念や認識が積極的な健康行動の前提条件となると考えられている [Rosenstock IM et al,1988]。つまり、この因子は、CHWs がコミュニティに健康的な価値観を広め、他の人の健康的な行動を動機づけることに貢献する認識を評価するために使用することができる。

第 2 因子は、地域住民の資源を強化し、健康的な行動を日常生活に取り入れることができるようにするための行動を捉えている。個人の健康行動は、社会集団や地域社会によって決定されるというエビデンスもある [Poortinga W,2005, Lee S,2018]。つまり、この因子は、地域の健康資源の創出に役立つ CHWs 間の行動を評価することは、健康行動の実施を促進する資源の獲得など、外的要因の調整に役立つ行動を評価するのに有用である。

したがって、本研究で開発した COCS-N は、トレーニングや活動を通じて向上させることができる、CHWs の認知面と行動面のコンピテンシーを評価し識別できる。今後は、COCS-N の予測妥当性を検証し、より広範囲の地域環境でより多くの CHWs に適用するために、長期的な研究が必要である。

引用文献

Ayumi Kono, Etsuko Tadaka, Yukiko Kanaya, et al (2012). Development of a community commitment scale with cross-sectional survey validation for preventing social isolation in older Japanese people. *BMC Public Health*, 2012 Oct 24;12:903. doi: 10.1186/1471-2458-12-903.

Berkman ND, Sheridan SL, Donahue KE, et al (2011): Health literacy interventions and outcomes; An updated systematic review. *Evidence Reports Technology Assessment* (, 199): 1-941.

M Ishikawa, M Nomura, M Miyoshi, et al(2019). A self-reported measurement scale on a potential component of competency in the healthcare staff engaged in the prevention and control of non-communicable disease in Fiji. *BMC Health Serv Res*. 2019 Nov 14;19(1):838. doi: 10.1186/s12913-019-4695-8.

Murayama H, Taguchi A, Murashima S et al(2007). Levels of the consciousness of activities among health promotion volunteers Comparison by years of volunteer's experience. *Japanese Journal of Public Health*, 54(9):633-643. Japanese

Nakayama K, Osaka W, Togari T, et al(2015) : Comprehensive health literacy in Japan is lower than in Europe; A validated Japanese-language assessment of health literacy. *BMC Public Health*,15:505, doi:10.1186/ s12889-015-1835-x.

Poortinga W(2006). Do health behaviors mediate the association between social capital and health? *Prev Med*. 2006 Dec;43(6):488-93. doi:10.1016 /j.yjpm.2006.06.004.

Rosenstock IM, Strecher VJ, Becker MH(1988). Social learning theory and the Health Belief Model. *Health Educ Q*;15(2):175-83.

Spencer L.M, Spencer S.M.(1993) Competence at work models for superior performance. John Wiley & Sons: 9–15.

World health organization (1989). Strengthening the performance of community health workers in primary health care. Report of a WHO Study Group. Geneva, World Health Organization. WHO Technical Report Series, No. 780.

World health organization (2021). Community health workers: What do we know about them? The state of the evidence on programmes, activities, costs and impact on health outcomes of using community health workers. https://www.who.int/hrh/documents/community_health_workers.pdf Accessed 6 July 2021.

論文目録

主論文

Development of a Community Health Workers perceptual and behavioral competency scale for preventing non-communicable diseases (COCS-N) in Japan

副論文

1) 今松友紀, 田高悦子: 生活習慣病ハイリスク者における継続可能性の高い行動変容に向けた行政保健師の支援方法の明確化に関する質的帰納的研究, 日本地域看護学会誌. 17(3): , 2015.

2) 今松友紀, 佐藤紀子, 宮崎美砂子: 地域活動参加に至った生活習慣病ハイリスク者の健康・生活に対する意識の発展過程, 日本地域看護学会誌. 15(1): , 2012.

参考論文

該当なし

学会発表などの関連業績リスト

< 学術論文 >

1) 今松友紀, 田高悦子: 生活習慣病ハイリスク者における継続可能性の高い行動変容に向けた行政保健師の支援方法の明確化に関する質的帰納的研究, 日本地域看護学会誌. 17(3): , 2015.

2) 今松友紀, 佐藤紀子, 宮崎美砂子: 地域活動参加に至った生活習慣病ハイリスク者の健康・生活に対する意識の発展過程, 日本地域看護学会誌. 15(1): , 2012.

3) 今松友紀, 田高悦子: 生活習慣病における一次予防プログラムの枠組みの開発 文献学的検討, 横浜看護学雑誌. 5(1): , 2012.

4) 今松友紀, 角田 美保, 諸井 理世, 遠藤 明子, 堀井 睦夫, 三宅 茂太, 臺 有桂, 糸井 和佳, 河原 智江, 田口 理恵, 田高 悦子, 水嶋 春朔, 森口 エミリオ秀幸: 異文化の中で生活を営む在ブラジル日系永住者に対する保健指導のあり方, 横浜看護学雑誌. 4(1): , 2011.

< 学会発表 >

1) 今松友紀, 田高悦子: 生活習慣病予防における行動変容と QOL の関連一文献学的検討一, 日本地域看護学会 第 17 回学術集会, 岡山, 2014.8.

2) 生活習慣病ハイリスク者の健康・生活に対する意識の発展過程, 第 30 回日本看護科学学会学術集会, 北海道, 2010.12.

3) 今松友紀, 田高悦子: 生活習慣病予防教室参加者の健康・生活に対する意識の発展に影響を及ぼす要因の検討, 第 69 回日本公衆衛生学会総会, 奈良, 2010.10.